



なかじま いちろう
中島 一郎 議員

高規格道路

拳ノ川インター開通は 平成30年度内の予定

問 高規格道路の片坂バイパス（四万十町西ICから黒潮拳ノ川IC間）は、工事が大きく前進している。また、佐賀工区（黒潮拳ノ川ICから黒潮佐賀IC間）も、構造物や盛り土等が急ピッチで行われているが、両区間の開通予定は、

定は。

そして、私達の町に待望の高規格道路が延伸することになるが、この機会を捉えて観光誘致活動や地域に活力をうむ企画提案はできないか。

答 森田 建設課長

国土交通省によると、片坂バイパスは、平成30年度内に開通予定と聞いている。また、窪川佐賀道路の佐賀工区、（拳ノ川ICから佐賀IC間）の完成の時期については、円滑な事業実施環境が整った段階で確定する。

答 門田 産業推進室長

高規格道路の延伸に伴い、特に観光客の流入など交流人口の拡大を図るチャンスが訪れるものと考えている。

道の駅や商店街の活性化を図り、入り込み客に対する商品として一次産業などの特産品の販売増にも期待が持てるので、黒潮佐賀ICまでの延伸を踏まえて検討する。

人口対策

移住定住の支援は 体制の強化を図る

問 移住支援については、

総合戦略の中でも地域特性を発信しながら、関係団体との協力連携を得て取り組まれているが、過去3年間の実績を問う。また、空き家情報提供や働く場の確保へのサポートと相談員の体制並びに移住者の定着調査は実施しているか。

答 宮川 総務課長

町移住者住宅支援協議会の空き家バンクを通して移住者は、平成26年度から28年度までが、40組81名で、加えて平成29年度2月末日現在の集計になるが、16組20名で平成26年度からの合計は56組101名となっている。定住に向けた悩みや心配ごとのフォローを行うために、平成27年度から

移住相談員1名を配置していたが、本年度から4名に増員して体制の強化を図ったところだ。

定着調査については、移住実績の56組を対象に調査したところ、現段階では8組が転出して定着率85%となっている。

随意契約

運用は適正か 適正な執行に 努めている

問 町契約規則により、

随意契約ができる契約の種類や額が定められ、工事や製造の請負については130万円以内としている。発注の場合には、2人以上からの見積りが求められているが、職員への周知徹底を図り適正に運

用されているか。

また、平成28・29年度の随意契約の締結件数は何件か。

答 宮川 総務課長

見積書の徴収等の取り扱いについては、予算の効率的な執行、公平性、透明性が担保されるよう法

令で定める適用条項を記載し、理由を付して適切な執行に努めている。請負と業務委託による随意契約の締結は、平成28年度135件、29年度2月末日で87件となっている。



高規格道路の整備状況（黒潮佐賀IC付近 平成30年3月撮影）